

## 操作性、快適性の高い技術開発を通じて 医療・介護施設の入浴シーンに変革もたらす 株式会社ヤエス

病院向けリハビリテーション機器の販売とメンテナンスを行なう企業として株式会社ヤエスが創業したのは1986年。同社が「寝浴・座位浴」タイプで入浴できる装置」として医療・介護・福祉施設のニーズに広げて開発したのが特殊入浴装置「ハートフル」。91年の1号機完成以来、いくつかの改良を加えつつ全国1300以上の医療・介護・福祉施設で活用されているハートフル導入の実績についてみてみよう。

### 水圧利用や高い操作性など 利用者、介助者双方にメリット

特殊入浴装置「ハートフル」がもつ代表的なポイントについて紹介しよう。  
第1は、他社製品の多くが電動であるのに対し、動作に水圧を用いている点だ。当たり前のことだが、浴室は湿度が高く、電気・電子機器にとっては苛酷な環境であるため、電動の機械はどうしても動作不良のリスクを払拭できない。  
ハートフルは水圧シンジターによって昇降するため、電気・電子部品のトラブルの心配がほぼゼロというだけでなく、停電時には水道の水圧で駆動することも

可能だ。また、昇降動作が非常に静かであったりしているため、利用者の不安をおさることもない。

第2に、入浴用ストレッチャーと入浴用車椅子の使い分けにより、あらゆる身体レベルの利用者であっても入浴できるということだ。

機械浴の導入時に寝浴用、座位浴用の装置を別々に設置することは、事業者にとって浴槽本体のコスト負担が増すばかりでなく、浴室面積自体を広く確保しなければならぬ分、建築コストとして跳ね返ってくるというデメリットも生じる。それらの問題を払拭できることはもちろん、入浴専用のストレッチャーや車椅子を用いるので衛生面でも安心して運用できるといえる。

第3に、操作性が高いというメリットも見逃せない。操作盤を見るとわかるように、専用操作レバーを「入浴」「出浴」に傾けるだけで、静かにプレートが昇降するようになっていく。

入浴時、介助者は利用者の心身の状態にたいへん気を遣う。その間、複雑な機械操作から介助者を解放し、安心して入浴させたい。と法人理事で副施設長の高井豊氏は語る。「医療の現場では命の価値が、そして介護の現場では命の質が求められる」というのが持論だ。理学療法士である高井氏は、以前から入浴の効能に注目。急性期や回復期に対して、慢性期にある利用者やその家族には「ほっとゆっくりできる時間、考える時間、止まれる時間が必要」（同氏）であり、そのために入浴は有効な機能だとする。

安全かつ快適に、あらゆる身体レベルの利用者が入浴できる設備はないか。ストレッチャーを用いてストレッチャーや車椅子ごと入浴する方法はあるが、この方法では水の抵抗などで介助者に大きな負担となる。利用者が本質的に入浴を望むためには、入浴介助者の負担も軽減しなければならぬ。できれば床ごと昇降するものはないか。

その答えが、ハートフルの導入だったのだという。こうして同施設で日々活用されているハートフルは、利用者にも、そして現場の介護職員にも好評だ。

利用者に好評な理由として、「お湯の中に自分から入っていく感覚が得られるので、ご利用者は本当にお風呂に入っている感じがする、と喜ばれます」（同氏）という。確かにいままでの機械浴は「洗われていく」感が強かった。「今日も自らお風呂に入る」という喜びは、日常生活のなかで元気の源となるだろう。

浴介助業務に専念してもらうことで、利用者の安全・安心も向上することになる。また、レバーを止める位置によって、プレートの高さ（深度）を無段階で調節できるため、血圧が高い利用者には半身浴、ゆっくり肩までつかりたい利用者には最深部までと利用者のニーズに合わせたきめ細かな対応が可能だ。

第4に、機器全体が省スペース対応のコンパクト設計になっている点である。ハートフルは事業者のニーズに合わせて、機器全体をコンパクトにして、2階など水圧シンジターが浴槽下部に埋設できない場合に備え、水圧シンジターを浴槽と並行して設置する「サイドサポートタイプ」も用意されている。

機械浴の装置は老朽化したら次々と買い替えていく、という常識・固定観念を打破したのが第5のポイントだ。ハートフルは、建築躯体部に直接ステンレスシンジターを埋設することで、老朽化に伴う買い替えを不要とした。ランニングコストとしては定期点検、パッキン等の消耗品交換、6年に1度のオーバーホールなどで、長期間にわたって低予算での運用が可能。

第6として、同社の営業担当者全員が「セールスエンジニア」と位置づけられているサポート体制で、すばやくトラブルやメンテナンスの対応にあたることのできる。

一方、介護職員にとっては、その操作性の高さがメリットとして大きいようだ。「導入当初はレバーを急に回し、思いのほか早く下がってしまい、片麻痺の方には『少し浮いてしまう感じがある』とご指摘を受けましたが、レバーをゆっくり操作すれば浮かずに沈んでいくので、職員もすぐに慣れました」と、同氏はいう。利用者にも本物の入浴の喜びをもたらす介護職員も楽に入浴させることができるハートフル。同法人では、森山ケアセンターでの実績を受け、隣接して建設中の古川親水苑でも5基の導入を決定している。1300超の全国の導入施設でも新規開設の際にはリビート発注がみられるといい、その効果を実感する事業者は多いといえそうだ。

施設概要	
施設名	介護老人保健施設 森山ケアセンター
所在地	東京都江戸川区江戸川5-4-23
事業主体	医療法人社団 森山医会
開設	2010年4月
敷地面積	7,003.09㎡
構造・規模	鉄筋コンクリート造・地上5階建て
延床面積	3,986.03㎡
施設内容	介護老人保健施設(定員150人) ショートステイ(定員10人) 通所リハビリテーション(定員40人) 居宅介護支援事業所

会社概要	
会社名	株式会社ヤエス
本社所在地	香川県高松市国分寺町福家甲1625-1
連絡先	TEL. 0120-475-839 FAX. 087-874-5122
URL	http://www.yaesu.org/
設立	1986年4月17日
代表取締役	藤井憲雄
資本金	3,000万円
事業内容	水圧式特殊入浴装置製造、他
営業所	東京・大阪・愛媛・福岡



富嶽三十六景「東海道江尻田子の浦略図」を眺める2階浴室



多彩な植栽が配された中庭を前に、露天温泉の感覚を楽しめる1階浴室



専用操作レバーにより煩わしい機械操作を軽減



入浴用車椅子使用時



ストレッチャー使用時



医療法人社団 森山医会  
理事 事務長  
高井 豊氏